

岡山県医師会女医部会報

第5号

女医部会の発展を願う

岡山県医師会長 井戸俊夫



女性の医療，看護，介護への進出が近年著しいにもかかわらず，また政府も男女共同参画社会に向けた取り組みを一層推進しているにもかかわらず，我が国では未だに女性が誇りを持って社会的使命を果たすための環境整備が十分に整っていないのではないかとと思われる。

さて，女性医師の増加率を見ると，国家試験における女性の合格者が3分の1を占めるということであるから，近年著しい伸びを示しているように思われる。又大学医学部の学生の男女比を見ると，最近では女子学生が6割を占めるところもあるというから，近い将来医師の男女比がほぼ同数，あるいは男女比が逆転するのではないかとさえ思えるほどである。

ところが，先年岡山で講演された日本医師会の羽生田常任理事の発言によると，日本医師会への女性医師の入会率は1割程度に留まるとのことであるし，医療現場においてもそれほど多くの女性医師に接することがないとすれば，要は離職したまま働いていないということであり，資格取得後の女性医師の動向が十分に把握されていなかったことになる。

一方，岡山県医師会の大本理事の報告によれば，岡山県内で医師会活動に参加されている女性医師の数は決して少ないものではないという。

社会的にも女性医師に対する期待と，担うべき役割がますます大きくなる中で，ご自身の診療以外に，学校医，嘱託医として，また医師会役員，委員会委員としてご活躍いただいている実態は私も十分承知しており心から感謝申し上げたい。

医師不足が指摘される中，更なる女性医師の再就職促進策や，働く環境の整備が必要不可欠である。出産・育児などにより休職，離職を余儀なくされた女性医師の復職については，医学的知識の遅れを不安視する事への対策，人間関係，労働環境対策，育児，家事に対する配慮など，多くの問題が払拭されなければ解決は困難である。

そうした勤務環境整備を図るためには、女医部会の協力が欠かせない。貴重な医療資源に再登場いただくために、女医部会のますますの発展を願うものである。

女医部会部会長就任のご挨拶

岡山県医師会女医部会 部会長 中 島 道 子



このたび、平成14年の発足以来部会長を務められました小山武子先生から、バトンタッチされ部会長を務めさせていただくこととなりました。

女医部会では昨年度までに、女性医師の勤務環境、保育・育児に関するアンケート等を通して、現状をみてきました。

また、医学生・研修医との懇談会を開催し、卒後研修の動向、研修後の進路、研究、結婚・出産・育児について意見を交換し、医業を続行しやすく、また、できるだけ中断しないよう、先輩女性医師として意見を述べさせていただきました。

近年、医師不足・医師の地域偏在・過重労働問題がクローズアップされています。

また、女性医師が次第に増加し、平成20年の医師国家試験では合格者のうち女性が34.5%を占めています。

女性医師が診療・研究・教育に携わっていく過程で、多くの場合、結婚・育児・子育て・介護が避けられないのが現状と思われまます。

今後、育児休業取得を可能にし、希望者には一時期は時間短縮勤務や当直免除など女性医師が働きやすい環境を整備し、院内保育所・病児保育所の整備を充実し、離職を予防し、再就業を進めていくことが必要です。

岡山県医師会ドクターバンクの活用・女性医師バンクとの連携も必要と思います。

新研修制度により臨床・研究の方法も多様化しました。大学病院など教育機関とも連携し、女性医師が働きやすい環境が、男性医師にとっても働きやすい環境となるよう活動していきたいと思ひます。

県医師会の皆様のご協力をよろしくお願ひします。

第3回女子医学生・女性医師と岡山県医師会女医部会との懇談会

岡山県医師会女医部会 委員 守屋 靖代



平成19年10月13日、衛生会館にて開催されました。

岡山県医師会から、山崎・大本理事、小山女医部会会長ほか委員10名が参加し、医学生10名、女性医師7名の参加がありました。

山崎・大本理事のご挨拶のあと、「生涯いかそう あなたの才能とキャリア」という演題で、岡山中央病院副院長の金重恵美子先生の講演がありました。お母様が女医さんで、お手伝いさんまかせだったので、人に文句を言わない、人に感謝ができる気持ちを持つことができたという生い立ちから始まり、使命を感じて医者になり、研修3年目の時、休むことでメスが握れなくなるのではと思い、産後8週で仕事に出、2人のお子様を育てながら、遅れている女性医療をしなければと中高年の女性医療をする様になり、1999年ウィミンズ・メディカルセンターを作ったという経験談を話されました。仕事を続けるのは当たり前、仕事を続けてよかった、医者という仕事はスキルは落とせないで基本的な事は身につける事、50～60年前と医療に対する期待度が違うし、人間の体は変わらないが、私達が担ってきた医療とあなた方がする医療は異なり、仕事を休むことのリスクが高くなっている、一回引っ込むと出にくいので、年齢に応じてフレキシブルな考えで仕事を続けて欲しい、医者は医者としての仕事を全うして社会に貢献して欲しいと話されました。

学生さんから、親やヘルパーなどの協力が得られないと子育ては難しいかとか、どのくらい研修して中断してよいかなどの質問がありました。

その後、懇談に移り、大本理事から、医師会報（岡山県医師会報第1200号686頁）に書かれている「視点」について話があり、30歳代の女性医師の就業が半数にしかすぎないので、フレックスタイム制度や当直免除などの労働環境の改善をアピールし、良い夫、良いボスを選び、休職・離職をしなくてもよい様に、変えていかなければと述べられました。

中島先生（女医部会副会長）からは、院内保育や病児保育、早朝保育など子育てがしやすい環境、女性も男性も働きやすい環境になれば、今後4割以上を占めてくる女性医師が休まずに働けるのではと述べられました。

柏先生（長瀬内科医院）は、医学部に入ったのだから、天職なので続けて欲しい、坂口先生（岡山市立市民病院）は、辞められた方はもう戻れない、細々でも続けること、続けたいという意志を持って下さいと述べられました。

他にいくつかの意見が出されましたが、ほとんどの人が、学生さんには辞めないで続けて欲しいと望み、休職・離職をしなくてもいい働きやすい環境となるようアピールしていこうということになり散会しました。

しかし、離職をする人の多くは、出産を契機に、関係者に迷惑をかけられないなどの理由で、平均28歳で辞めざるを得ないようです。その原因の一つと思われることは、都道府県医師会のアンケートによるものですが、産休がとれる体制にあるのは50～80%くらいで、代替医師制度があるのは10%にもみたくないという現状があります。医局制度が崩壊して交代医師の派遣がままならない現在、産休がとれない、産休がとれても元のポジションに戻れないのではと思われます。育児をしながら職を探すのは至難の業です。4割が女性医師になろうとしている近い将来、安心して産休がとれ、その後の復帰がスムーズにできる体制が早急に望まれます。

◇シリーズ 女性医師支援 病院での取り組み◇

第1回

「働きやすい病院」として認定されたしげい病院

岡山県医師会女医部会 副部長 清水 順子

女性医師をとりまく問題、特に、出産・育児との両立、離職などの問題は、病院に勤務している時期に多くは起きていると思われます。そこで、今回から、女性医師支援のさまざまな取り組みをおこなっている県内の病院を紹介していくことになりました。

今回、紹介するのは、倉敷市にあるしげい病院です。院長の重井文博先生にお話を伺いました。

しげい病院は、259床（一般50床、療養110床、回復期リハビリテーション48床、障害者施設等51床）と透析センター（同時透析100床）の病院で、腎・透析医療とリハビリテーションを中心とした医療を行っています。また、自然保護や環境問題への取り組みもされています。

今年1月に、全国で8番目、岡山県下では初めて、NPO法人「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会（ejnet）」の評価・認証事業により、しげい病院は「働きやすい病院（女性医師・すべての医療従事者にやさしい病院）」として認定されています。ejnet



重井文博 先生

は、女性医師の就業・生活を取りまく問題解決のため、女性医師の社会的貢献と地位

向上の支援を目的する組織です。この認定では、育児・介護支援、復職支援、女性医師のキャリア形成などが評価されます。

「働きやすい病院評価」を受審したのは、女性医師を含め、女性が働きやすい病院と認定されることは、男性医師を含めたすべての職員にとっても働きやすい病院であることが認められるということ、職員満足無くして患者満足はないと考えたことなどです。しげい病院では、病院創立当初から、職員の福利厚生に力を注いできていますが、他院と比べて当院の働きやすさのレベルはどうか、不足しているところを知りたいと、第三者の視点で客観的に評価、アドバイスを頂くことが一番の目的だったとのこと。将来的には、複数の女性医師がチームを組んで、産前・産後、育児期などの代替要員となるような体制や、キャリア形成を支援できる病院になることなども目指しています。

認定以後、女性医師の新たな就職は、今のところないそうですが、看護師さんの就職面接で、病院ホームページで認定されたことを見たという人は多く、看護師の就職には役立っているとのこと。

常勤医12名中女性は2名ですが、ちょうど、この機に改定された就業規則で1名の女性医師が非常勤で働いており、お会いすることができました。H7年卒で、夫は医師（現在研究職）で、小学校5年から1歳までの4人の子どものお母さんです。岡山から通勤しているため、今は保育園の迎えに間に合うように、週4日9:00~15:00の勤務ですが、勤務時間・曜日も彼女が働きやすいように、その時々状況に応じて、柔軟に対応してもらっています。療養病棟勤務で急変は少ないけれど、不在時は他の医師のフォローがあり、また、同僚の男性医師からは、非常勤でもほぼ毎日働いてくれていて、病棟の細々したところまで対応してもらって助かっているとの評価です。4人目の子どもが3歳になったら常勤で働きたいと考えているそうです。

最後に、女性医師が働きやすい病院だけでなく、女性医師が働きやすい社会になるためにはどんなことが大切かとの問いには、働きやすい環境づくりはもちろんのこと、世の中女性が半分、これからは医師も女性が半分。女性医師もプロとしての意識を強く持ち、もっと自己表現したり、意見を言うていくことが大切と話されました。

岡山県医師会女医部会委員会 (平成20・21年度)

役職	氏名		役職	氏名	
部会長	中島道子	岡山市	委員	河口礼子	玉野市
副部会長	清水順子	玉島	委員	宮島裕子	笠岡
副部会長	池田元子	高梁	委員	漆原嘉奈子	吉備
副部会長	神崎寛子	岡山市	委員	逸見睦心	御津
委員	小山武子	岡山市	委員	塩見典子	赤磐
委員	深田好美	岡山市	委員	内田久子	邑久
委員	岡崎祐子	西大寺	委員	田中通子	浅口
委員	江澤香代	倉敷	委員	白岩美咲	真庭市
委員	吉村友江	児島	委員	山下佐知子	勝田郡
委員	守屋靖代	玉島	委員	菊池了子	美作市
委員	高橋武代	玉野市	委員	片岡仁美	岡山市(岡大)

